

(様式例 2)

平成 23 年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 27

I 自己評価

1 学校教育目標	誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体の上で、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。 (1) 社会で通用する確かな力を身に付けさせる。 (2) ルールやマナーを自ら守り、社会的規範を大切にさせる。 (3) 自ら健康と安全を管理できる生徒を育てる。		
2 評価する領域・分野	◇ 工業		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	保護者・生徒アンケートの結果より ・「外部講師の講演や様々な体験活動など授業以外の学習の機会が多い」については、保護者の 90%、生徒の 78%があてはまるという評価をしているが、生徒の評価が低いのは自分が外部活動に参加しているかどうかによって評価しているのではないかと思われる。 ・「資格取得を奨励し、補習などによる積極的な援助」については、保護者の 99%、生徒の 95%が高評価をしており、資格試験に対する日常の指導体制が理解されている。 ・「安全教育」については、保護者の 84%、生徒の 93%が高評価であり、生徒の方が日頃の安全教育指導に対して理解していると思われる。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 教科指導を通して職業観・勤労観を育成し、心豊かな人間性とたくましく生きる力を育てる。 (2) 企業との連携により地域産業のニーズに応じた実践力と協調性のある人材を育成する。 (3) 出前授業やものづくり体験企画等の開催を通して、生徒のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域や小中学校の児童生徒・保護者へ工業教育をPRする。 (4) 授業を通して安全教育を推進し、事故災害の未然防止を図る。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・工業部 → 学科主任会（産振担当、資格担当、課題研究担当） ↳ 工業庶務係（渉外・会計・広報、各イベント担当）		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 飛び出せスーパー専門高校生推進事業の実施 (2) 地域と連携した活動の推進 ① テクノ・コラボレーション ② 大工 Day ③ 出前授業 ④ 地域イベントへの参加	(1) 事業への参加生徒の反応と感想 西濃地区合同発表会時の一般・中学生アンケート (2) 各活動に参加した生徒の反応と感想 各活動で実施したアンケートの評価		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・「飛び出せスーパー専門高校生推進事業」として、昨年度と今年度の2年間の研究指定を受け、「地域産業スペシャリスト育成アクションプラン ～めざせ！現代の名工～」というテーマで取り組んできた。 ・今年度の課題研究テーマまたは部活動テーマとして、大垣特別支援学校の先生方と協同して、	①ものづくりの奥深さやすばらしさを学び、積極的にものづくり大会や資格取得に取り組めたか。 ②、他人を思いやれる心を育成し、「ひとにやさしいものづ	Ⓐ B C D A B Ⓒ D	

<p>障がい者用教材の作成を行い、寄贈した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月30・31日に「大工Day」と銘打って、大垣市内2ヶ所の商業施設で、各学科および理科部の参加によりブースを設けて、作品の展示やものづくりなど来場者に体験してもらえる活動を行った。 西濃地区の小中学校の授業の一環として、本校の教員や生徒が講師となって授業を行う「出前授業」について、小学校5校・中学校11校・特別支援学校1校から申込みがあり、各校と調整を取って実施した。 西濃地区を中心とした自治体や各種団体の依頼により、地域で実施される地域おこしのまつりやイベントなどに、本校の部活動の成果の発表やものづくり体験コーナーなどを設置し、地域の人達と交流した。 	<p>くり」を考える力を深化させることができたか。</p> <p>③生徒が外部の人と対応することにより実践的なコミュニケーション能力が身についたか。</p> <p>④小・中学生に対して工業高校への興味・関心を喚起し、本校の広報の一助とすることができたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p>
<p>11 成果 ・ 課題</p>	<p>○企業による実践的なものづくりに関する学習ができ、本年度は特に各種ものづくり大会のほとんどの種目で上位入賞を果たすことができた。また、国家試験にも積極的に受験する生徒が増えた。</p> <p>○地域の住民や小中学校生・保護者及び地元企業に、工業教育ならびに大垣工業高校のものづくりが浸透し、身近に感じてもらえるようになった。</p> <p>▲活動の多様化に伴い、職員・生徒の負担が大きくなっている。また、生徒の学習や資格取得・課外活動などに対して取り組む姿勢に大きな差が見られ、学校全体の活動として取り組みきれなかった。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての生徒に対して実践的な力を付けさせる方策を充実させていくとともに、意欲的な生徒に対してはさらに高度な能力を身に付けさせるような取組を図っていく。 地域や企業・他の教育機関との連携をさらに充実させ、より多くの人たちに工業教育への理解を深めてもらうとともに、本校がものづくり人材育成の場として地域に理解され、積極的な後援を得られるようにする中で、ものづくりに強い興味・関心をもつ優秀な人材が集まるような方策を図っていく。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成24年1月16日

【意見・要望・評価等】

- テクノコラボレーションなど、大変多くの地域に密着した活動がなされているので続けていってほしい。